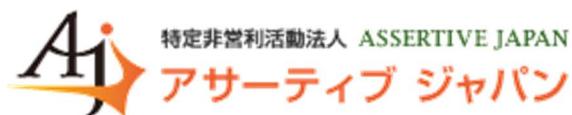


## ◆研究概要等

大学院以来の自分の関心を改めて振り返ってみると、様々なことに関心が移ってきたようにみえますが、根底では、平等や対等、フェアネスといったことが気になり続けているようです。

資源の分配におけるフェアネス認知を研究してきました。分ける資源(物資的資源だけではなく、時間、サービス、予算、関心や注意など)が豊富にあるなら、あまり問題にはなりません、多くの場合は十分な量はありません。すべての人が望むだけ手に入れることは難しく、資源は分け与えられねばなりません。誰にどれだけ分配するのがフェアだと言えるのかが問題となります。どのような状況で、どのような考え方で(分配原理)、どのような手続きで(分配方法)、どのような結果(分配結果)になったときにフェアだと評価されるのかを実験的に研究してきました。原理、方法、結果のフェアネスは独立して認知され、どれが重視されるのかは、分配者であるか、第三者であるかによって異なります。



## ■現在の研究テーマ

## 1. アサーティブ・トレーニングの効果

教育、医療・福祉、企業などさまざまな現場でアサーティブなコミュニケーションを身に付けるための研修や講座が開かれています。私自身、トレーナーとして、また学習者として、アサーティブ・トレーニングと関わっている中、学びを通じて人は変化可能であるという実感を持っています。しかし、「実感」は実証的に検討されねばなりません。ど

心理系専攻

社会心理学研究室

教授

ほった みほ

堀田 美保

[mihohotta@socio.kindai.ac.jp](mailto:mihohotta@socio.kindai.ac.jp)

その後、アサーティブネスというコミュニケーション理論に出会い、現在に至るまで、それに惹かれ続けています。アサーティブネスとは、「自他尊重」を土台とし、問題解決に向けて、自分の想いを伝え、交渉をすすめるコミュニケーションの1つの方法です。アサーティブネスを人々に伝える活動を行っているNPO法人、アサーティブジャパンという団体で学び、認定講師として自らトレーニングを実施しながら、研究を行っています。

のような過程を経て、何がどう変化するのかを検討することで、トレーニングのプログラムの改善も可能となります。

## 2. 人間関係における対等性の理解

アサーティブネスの土台は自他尊重です。コミュニケーションをとる際に、相手を見下すことなく、かといって、自己卑下するわけではなく、役割や立場で上下関係があったと

しても、人と人として互いに尊重することが求められます。

人間関係における対等性について、このように説明されると、多くの人は確かに大事なことであり同意はするでしょう。しかし、「でも現実には無理でしょう」ということばが続くこともしばしばあります。また、「理念」としてはわかるが、具体的にはどうすればいいのか、という疑問もわいてきます。

トレーニングを行う上で、こういった疑問に明確に答えていく必要があります。しかし、これまでの心理学には、コミュニケーションにおける対等性とは具体的にどのようなことが含まれるのか、といった疑問に答えるものはありません。

そこで、トレーナーを対象にインタビューやアンケートを実施し、アサーティブネスにおける対等性の具体的要素の抽出、整理を行っています。

### 3. 社会心理学の歴史

留学先であったカナダで日本の社会心理学について紹介をする機会があり、その際、社会風土と社会心理学の関係について論じました。数年前から「心理学史」を担当するようになったこともあり、またその関心が戻ってきています。近年の日本の社会心理学の文化的特徴があるのかなのか、考えてみたいとも思っています。

#### ●論文・著書等

堀田 美保 (2009) 「対等」という語に対する一般的イメージについての一考察 近畿大学文芸学部論集 文学・芸術・文化, 第21巻, 第1号, 15-39.

堀田美保 (2013). アサーティブネス・トレーニングの効果研究では何が測られているか 近畿大学総合社会学部紀要, 第3巻, 第1号, 35-48.

堀田美保 (2013) アサーティブネス・トレーニング効果研究における問題点 教育心理学研究, 61, 412-424.

堀田美保 (2015). アサーティブネスにおける「対等性」の要素 — アサーティブネス・トレーナーの語りから 近畿大学総合社会学部紀要, 第4巻, 第1号, 1-25.

大越愛子・堀田美保 (編著) (2001). 現代文化スタディーズ 晃洋書房

堀田美保訳 (2005). 社会心理学が描く人間の姿 バー著 ブレーン出版

1987年3月26日 学術修士 (大阪大学)

1992年6月12日 Doctor of Philosophy (Psychology) CANADA Carleton University

#### ▲趣味等

もともとは体を動かすことが好きでしたが、この頃はあまりその時間がとれていません。今の私の趣味的時間とは、我が家の猫たちの観察、そして彼らとの対話でしょうか。心が和みます。

#### ◆ゼミの宣伝等

本ゼミで扱うテーマは多様です。ゼミ生のみなさんが、それぞれの関心に沿って見つけてきます。SNS上でのコミュニケーション、一人で行動すること、ファンやオタクの心理など、現代的な問題への関心も高いようです。他にも、人間関係や自己認識にかかわるテーマが多く研究されています。ゼミでは、まずは自分の考えを述べること、それが最重要視されます。